

令和元年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会 議事要旨

日 時：令和元年 12 月 10 日（火） 15：00～16：30

場 所：琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構 成 員：13 名

出 席 者：<がんセンター>4 名

朝倉義崇（中部病院）、戸板孝文（中部病院）、友利寛文（那覇市立病院）、増田昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンター）

<スカイプ参加>5 名

尾崎信弘（八重山病院）、平良美江（八重山病院）、田盛亜紀子（やいまゆんたく会）、松村敏信（宮古病院）、中山幸子（宮古病院）

欠 席：4 名

赤松道成（北部地区医師会病院）、我如古春美（北部地区医師会病院）、真栄里隆代（ゆうかぎの会）、仲里可奈理（沖縄県保健医療部健康長寿課）

陪 席 者：1 名

岸本夕紀（琉球大学医学部附属病院がんセンター）

【報告事項】

1. 令和元年度第 2 回離島・へき地部会議事要旨について

尾崎部会長より、資料 1 に基づき令和元年度第 2 回離島・へき地部会議事要旨の報告があり、承認された。

2. 離島・へき地部会 委員一覧

尾崎部会長より、資料 2 に基づき離島・へき地部会委員に特に変更がない旨の報告があった。

3. 「要望書」について

尾崎部会長より、資料 3 に基づき要望書の提出について質問があり、増田委員より、まだ提出できていないが、先月病院長と話して要望書の提出について合意を得られたが文言を修正するよう指示があったため、修正が済み次第年内には県に提出したいと回答があった。

また、松村副部会長より、要望書には県立宮古病院と八重山病院と限定されているが、北部地区医師会病院の要望はどこに反映されるのかと質問があり、増田委員より、この要望書に関しては宮古病院と八重山病院を主としているためこの 2 カ所になっているが、北部のことをどうするかはまた別に話し合いが必要だと思うと回答があった。

4. その他

増田委員より、幹事会が1月24日（金）に変更になったと報告があった。また、医療部会が立ち上がったと併せて報告があった。医療部会の議題は、がんゲノム医療についての情報提供と薬物療法について免疫チェックポイント阻害薬等に関するディスカッションしていただく予定だと説明があった。理由として、琉大でのがん遺伝子パネル検査について、手続きが細かく取り決めがとて多いためなかなかスタートできない状況だが、来年1月には琉大の中でスタートして、5月からは他の施設から症例をいただけるよう部会内でアナウンスし了解を得る予定と説明があった。

【協議事項】

1. 個人情報を含む（画像）情報を拠点病院間で共有できるネットワーク作りについて

尾崎部会長より、事務経由で確認したが積極的に構築していこうという動きが見えないため、要望のようなかたちで提出するしかないのではないかと意見があがった。増田委員より県立病院の中で予算やセキュリティ、患者共有についてどのような話がされているのかと質問があり、朝倉委員より、今ある回線を有効利用しようと考えており、南部医療センターと離島診療所の情報共有システムがあるように、県立病院全体でもできないかと相談しているが、予算がないため新たに何かをやるのは難しい状況だと回答があった。

また、友利委員より県立病院間の専用回線はないのかと質問があり、朝倉委員より、保健医療部の予算で特定の用途に使える周産期の回線があるが別の何かを流すことができないと回答があった。これらを要望書としてまとめることになり、朝倉委員が中心となって取りまとめることが決まった。

2. 県の薬剤購入費について

尾崎部会長より資料4に基づき説明があった。平良委員より八重山病院は薬剤費に関して来年度はかなり上乗せされた予算編成になっていると報告があった。増田委員より、病院によって差があってはいけないので県立病院間で均てん化が必要だと思うと意見があがった。中山委員より、八重山病院は化学療法認定看護師に力を入れているが宮古病院は認定看護師が常駐しておらず、化学療法に関するシステムチックの部分が十分確保されていない印象があると説明があった。

また、平良委員より八重山病院は主治医と薬局長が管理者会議の中で薬剤の使用について提案し議題をあげて、予算を超えても必要性があればその場で承認して使用していると説明があった。

3. 「北部・宮古・八重山医療圏におけるがん医療をどこまでやるのか」について

これまでの部会において、北部、宮古、八重山のそれぞれの二次医療圏で、現在、可能ながん医療について報告が行われた。

その事実を前提に、今後数年から5年後をめどに、離島・へき地のがん医療をどこまで充実したらよいかの目安として、以下のことを議論することとなった。

具体的には、診断と治療を二次医療圏内で自己完結した方がよいがん種と二次医療圏を超えて沖縄県として集約した方がよいがん種を選定すること、さらにはがん種ごとに、外科治療、放射線療法、薬物療法ごとに、同様に二次医療圏内で自己完結した方がよいがん種と二次医療圏を超えて沖縄県として集約した方がよい治療法を、ひとつひとつ議論していくことになった。

各委員より資料 5 に基づき説明があり、松村副部長より「胃・食道・大腸」に関して宮古病院は食道を除けば A になると説明があったため、「食道」の表を分けて作成することになった。増田委員より、八重山病院と宮古病院は「乳房」に関しては A にすべきではないかと意見があがり、放射線を除いて A へ変更することになった。田盛委員より資料の表現だと現状が A だと勘違いが起こるのではないかと意見があったため修正することになった。修正後は委員全員へメールで送り確認をしてもらうことになった。

また、戸板委員から、「がん医療をどこまでやるのか」について、「治療の実施」と「(カンファランス等による)治療の的確判断」の二つに分けて議論しなければ、混乱が生じるとの指摘があった。この点については、次回の部会で議論を行い、分けて議論をすることと、最終報告書の表現方法を協議することとなった。

4.今年度の開催日程について

第 4 回 令和 2 年 3 月 10 日 (火) 15:00～

5.その他

戸板委員より、離島へき地から本島内の放射線治療施設への紹介の手順や取り決めを作ってはどうかと放射線治療のグループから提案が出ていると説明があり、これから素案を作成し本部会で提案をしたいと報告があった。戸板委員に放射線治療としてのネットワーク作りについて取りまとめてもらい、遅くとも 4 月の幹事会へ提出してもらうことになった。